

Letter from the President

## 世界YWCA会長からの手紙

スーザン・ブレナン (世界YWCA会長)

## 特集 Women Creating a Safe World

「女性が創り出す安全な世界」～各世代の女性たちのメッセージ

今日、多くの女性と少女が、依然として暴力・HIVとAIDS・虐待・排除に苦しみ、自信と力を奪われた世界に生きています。こうしたことは、家庭や学校などあらゆる場で起きていますし、隣人間で、住んでいる街で、地域社会で、国レベルで起きています。彼女たちは尊厳を奪われた生を生きしており、彼女たちが黙しているところでは、そのリーダーシップもおおざりにされ、潜在能力も未開発です。「安全である」ことは、普遍的な人権を享受し、汚名や差別から自由であるための土台です。「安全である」とは、女性、特に若い女性が、結婚・子どもの数・出産間隔などの性と生殖に関する選択も含めて、自分の人生の決めることができるということです。「安全である」

## The Young Women's Christian Association

## YWCA

日本YWCAの使命(ミッション)  
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する  
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題

平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

4

APRIL  
2011

No.701

www.ywca.or.jp

日本YWCAビジョン2015

- (1) 非核・非暴力による平和を構築する  
・平和憲法をまもり、世界に広める  
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く  
・女性と子どもの権利をまもる  
・パレスチナYWCAの活動を支援する
- (2) 若い女性のリーダーシップを養成する



## Letter from the President

## 世界YWCA会長からの手紙



スーザン・ブレナン

世界YWCA会長

とはまた、女性と少女が自分の人生をどのような環境で過ごしたいかということ、を明確に描けるということでもあります。

女性がリーダーシップをとり、共に分かち合い、仕え、影響を与え、周囲を巻き込んでいくための安全な場は、YWCA運動においても、またそれを越えても、ますます重要になっていきます。YWCAは、世界の2万2000以上の地域社会で、女性・若い女性・少女をエンパワーする安全な場を提供しています。その活動範囲は幅広く、子育て支援から職業訓練、暴力・虐待避難シェルター、宿泊施設、健康センターにまで及び、人々を歓迎し、支え、誰をも排除せず包み込む場となっています。YWCAはまた、女性と少女の安心と安全を高め、暴力や差別からの自由といったプログラムを活発に導入し、支援しています。YWCA運動が信ずるところによれば、安全な場とは、多様な女性たちが、自らの潜在能力を見事に開花させることができる場なのです。(翻訳協力:西 文子)

出典:世界YWCA「アニュアルレポート2010」

## 東北地方太平洋沖地震

被災された方々に心からお見舞い申し上げます

日本YWCA会長 俣野尚子

この度の大規模地震災害に伴い、多くの方々の生命が奪われ、また、多くの大切なものを失われた方々に心からお見舞い申し上げますと同時に、神さまの慰めがあることをお祈り申し上げます。また、福島原発の事故に伴う放射能汚染、被曝の実態など不透明なことが多く、大変憂慮しています。

日本YWCAは、被災された女性や子どもたちの安全と安心のために、中長期支援を視野に入れ全国のYWCAと連携して活動を開始しました。

「東北地方太平洋沖地震 被災者支援募金」を開始し、①長期的な支援計画として、被災された女性・子どもたちの受け入れの体制づくり ②被災された外国人の方たちへの他言語での情報提供 ③その他、状況を見ながら支援に用います。ご協力をお願い申し上げます。

世界YWCAをはじめ世界中のYWCAからも、祈りと応援のメッセージ、そして支援が届いています。

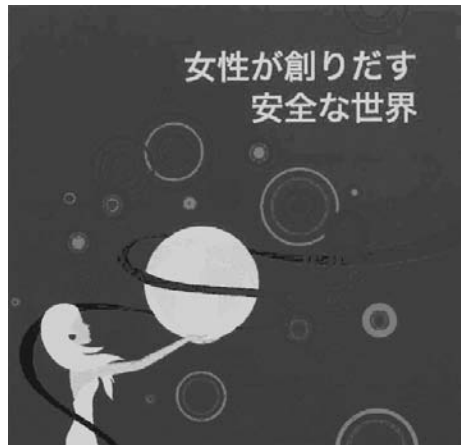
「核」否定の思想に立つ日本YWCAは、改めて「核」に依存する私たちの生き方を問い直す声をあげなければなりません。被災者への支援と同時に、核汚染の拡大を防ぐべく、情報を見極める力を養うと同時に、関係諸機関への厳しい監視と要請を行っていきたく思います。

被災された方々の生活を取り戻す道が与えられますようにと祈り、また、行動を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお祈りいたします。

# Women Creating a Safe World

「女性が創りだす安全な世界」。

今年7月の世界YWCA総会のテーマである。YWCAの女性たちは、創立当初から平和な世界を創りだすために、リーダーシップを発揮してきた。しかし、今なお「女性性」と冠せざるを得ない現実、否応なく私たちは向き合わなければならない。女性に対するあらゆる暴力・差別・人権侵害、その結果としての貧困。そのことは、未来を担う多くの子どもたちをも貧困に追いやっている。「人間への投資がもたらすものは、絶望の代わりに子どもたちへ手渡される希望」と、ジャーナリストの堤未果



special Issue

特集

昨年ハーバード大学マイケル・サンデル教授が日本に招かれ、ある大学で、「正義」を議論する授業を行い話題になった。「今の日本の学生はパソコンなどの機材を使つてうまくプレゼンテーションする。しかし対話となると論理矛盾が多く、議論がかみ合わない。世界レベルで議論し、コラボレーションのできる教育が必要」と関係者は指摘している。世代も国も異なる人が意見を交わし、耳を傾け、考えを深めていく対話は、これからの時代ますます求められる。「対話」こそYWCAが今に至るまで最も大切にしてきた姿勢であり、

さんは機関紙『YWCA』682(2009年5月)号で語っている。

そのことを通して一人ひとりが育てられてきた。

●

現在、日本を取り巻く東アジアには超えなければならぬ断絶・課題は確かにあるが、私たちの周りにはあまりにもあいまいな脅威論が独り歩きしているように思える。戦後何度も苦しい局面を迎えながらも私たちの先達は、アジアのYWCAとの溝を埋める努力と平和の種をまくことをやめなかった。そして今、確かな芽生えを感じる事ができる。この人と人との絆を、私たちはさらに強く、強く、揺るぎないものにしていきたい。軍備と武力行使によってではなく、非暴力を貫き対話によって平和を築く道を、固い決意を持って歩み続けたいと思う。全国26の地に広がるYWCAで、時に他の団体とも一緒になって練り広げられる働きは、確かな希望を生み出している。そして何よりもその働きの喜びをもって参与する仲間が与えられている。限らない感謝である。

日本YWCA副会長 実生律子

\* 次ページから、YWCAに連なる各世代の女性たちのメッセージを紹介いたします。

## 4/24は世界YWCA日です。

1855年にイギリスで誕生したYWCAは、以来150年以上にわたり、女性と少女のリーダーシップを発揮してよりよい社会へと変革するために活動してきました。今では、125カ国で約2500万人の女性たちがYWCAネットワークに参加し、他の国際機関とも協力して、正義・平和・人間の尊厳・自由・持続可能な環境などの領域でリーダーシップを発揮しています。

1947年から4月24日を世界YWCA日として、世界中のYWCAでこの特別な運動の歴史を祝ってきました。



## モーア・アン

神戸YWCA



約20年前に、夫と私は仕事でアメリカから日本に来て、韓国・アメリカ・日本という三つの文化の中で日々暮らしている。

3人の子育てが終わる頃に、クリスチャンの知人から積極的に勧められ、神戸YWCAの高齢者を対象とした会食・配食プログラムに参加したのがYWCAとかかわるきっかけだった。

それは、地域のニーズに基づき、ボランティアによる献身的活動であり、その現場はとても心を動かすものがあった。さまざまな一人暮らしの高齢者に手づくりのお弁当を配達するのだが、単なるお弁当配達ではない。動きのとれない高齢

者のためにドアを開け、声をかける。デイサービスに出かけて留守の場合は、お弁当を冷蔵庫に入れておく。そうすることで高齢者の方は安心してホームメイドの食事ができるのである。

また、外国人としての日本での長年の経験を生かし、滞日外国人支援グループ IWA (International Women's Assistance) を他のメンバーと共に立ち上げることができた。それぞれ国籍も文化も育った背景も異なっているが、YWCAにエンパ

ワーされ、共に成長し、より良い社会づくりへと参与できたのである。

昨年、私は神戸YWCAの会長となり、地域の活動はもちろん、国際会議などに参加し、多くの人々に出会う喜びがあった。今夏にはスイスで開かれる世界YWCA総会に参加する。世界のYWCAを通して受ける挑戦と恵みに、心が膨らみ、わくわくする。YWCAだからこそ、すべての良き経験と恵みが与えられている。

## 下村優紀

名古屋YWCA

YWCAでの出会いは、自分が知らない生き方やさまざまな可能性を教えてくださいました。

私は08年の日韓ユース・カンファレンス（日本YWCA・韓国YWCA共催）に参加しましたが、この体験は後の人生を大きく変えてくれました。当時25歳にも関わらず中学英語もままならず、海外旅行の経験もなく、メディアの言うことを鵜呑みにし、閉じた世界の中で生きていた私。しかしこの4日間で大



いに刺激を受け、韓国から帰国後は自ら学びを求め、行動する人間へと変化してきました。

そして2年半後の今年、ワーキング

ホリデーでオーストラリアに出発します。日韓ユース・カンファレンスで芽生えた「英語を話せるようになりたい」、自分の知らない世界をもっと知りたい」という思い。それらに、活動を通じ学んだ「一つの物事を多様な角度からとらえ、自ら考える」という姿勢が作用した結果、ただ世間の流れに沿って生きるのではなく、自ら時代の流れに向き合い、考え、自分の道をつくっていくという選択肢に出会えました。不安も大きいながらも

決断に至れたのは、いつもYWCAの皆さんが、至らない私でも明るく丁寧に接してくださり、肯定し続けてくださったおかげです。だから私は、自信がなかった自分のことも少しずつ信じられるようになり、今回、自らの考えに沿って生きてみようかと決断することができました。YWCAに出会い、私の人生は何十倍も充実しました。これから先、どのような未来が自分を待っているのか、とても楽しみです！

## 今堀加奈

同志社女子高等学校2年

学校YWCAの活動を通していろいろな意見や考えを聞いて、普段の生活では学ぶことのできない貴重な体験をしています。

昨年、同志社女子中高YWCAは、中高YWCA関西地区カンファレンスの主催校として、自分の価値に改めて気づき、生命の大切さと他人を大切にすることが、人を育てる大切なことと気づき、という思いでプログラムを作りあげていきました。カンファレンスに懸ける思いは、

皆とても強く、私たちの人生においてかけがえない大切な思い出となりました。不安もたくさんありましたが、他校の皆さんの協力を得て、予想以上に豊かな時を持つことができた喜びに心があふれています。今回のテーマは「生命のメッセージー自分を本当に大切にすること」でしたが、生命についてだけでなく、人は一人では生きてはいけない、支え合うことによって人は強くなれるし自信も持てるのだ、ということも同時に



学ぶことができました。

このように、毎年夏に行われるカンファレンスで得たことを、私たちは心に深く刻んで、その後のクラブ活動に生か

しています。牛乳パックによる再生紙作りや、手話の勉強、施設訪問、クリスマスページェントでの接待など、他の人を思いやることをテーマにして活動しています。同じ志を持つ生徒が集まり、クラブ員全員がとても仲が良くアットホームな雰囲気の中で、他では経験できないような「人を思いやること」を考える時間をもち、また、それを実践していくYWCA活動の魅力は言い尽くせません。

### 高野和佳子

熊本YWCA

神さまの計画は本当にすごい！小さな偶然の重なりが私をYWCAに導いてくださったことに感謝します。YWCAと出会って20年余り。その間、「平和」についてたくさん学ばせてもらいました。人の心の平和、民族間の平和、社会の平和、地球環境の平和…。それらが守られなければ、子どもたちは安心して生きることができません。しかし、残念なことに戦いは絶えず、子どもや若

者の心の安定も危うい状況です。人間のエゴで環境は破壊され、自然形態は崩れつつあります。YWCAからの学びの中で、地球の未来を担う子どもたちに何を伝えていくべきか。何ができるのか責任をもって考えなければと強く思うようになりました。私は、子どもたちが情緒豊かに育ってほしいという願いのもとに、仲間とNPO法人子育て支援ワーカーズを立ち



上げ活動しています。この活動も20年以上たちました。この活動の核にあるのは、絵本・昔話・わらべうたを通して「言葉」

の大切さを子どもたちに伝えることです。子どもたちにより良い言葉環境を保障することで、子どもは言葉を通してさまざまなことを感じ、学んでいきます。その学びこそが、あらゆる平和につながっていくのです。子ども自身が平和の創り人となるよう、大人たちが豊かな言葉で、子どもたちに寄り添うことが大切だと確信しています。武力でなく言葉で平和を…。

### 三宅文子

東京YWCA

約60年前、中学3年だった私は、友人に誘われて中高YWCAの修養会に参加しました。敗戦後間もない頃、YWCAが何かも知らなかったのですが、私は新鮮な感動と喜びに満たされました。それから学校のYWCAに入り、主として欧米の宣教師の先生の指導のもとで活動をしました。大学入学後、その頃盛んだった学生YWCAのメンバーになりました。そこで初めて社会の問題に目が開かれ、上級



生の指導のもと、聖書を学び、本を読み、ディスカッションしました。社会人となってしばらくはYWCAに属することはありませんでした。地

域YWCAの会員になるきっかけは、東京YWCA専門学校のグループアドバイザーになったことでした。週1回通っているうち、次第に会員活動の委員を頼まれるようになり、先輩からいろいろ学びながら役割を果たしていききました。そのうち東京YWCAの幹部委員や日本YWCAの委員を経験することになります。そして、ひろしまを考える旅や沖縄訪問の旅に参加、たくさんの方と吸収していききました。それから私は野尻

キャンプ場が好き、あの豊かな自然の中で得るものこそ、YWCAそのものだという気がしています。私にとつてのYWCAは学びの場であり、またよい友人たちとの出会いの場です。現在は家族の事情などで、特に活動には参加していませんが、機関紙『YWCA』はよく読んでいます。ちょっと難しい内容もありますが、共感を覚えることが多いです。元気なYWCAであり続けてほしいと願っています。

### マーサ・メンセンディーク

京都YWCA



私は現在、大学で社会福祉学を教える立場にいます。その中で若い学生にYWCAの魅力を知ってほしいという願いがありません。それはなぜでしょうか？ 社会をよ

り良い社会に、より平和な世界に導く志を持った人たちと出会ってほしいからです。YWCAにかかわっている人たちとの出会いは、学生たちにとって良い刺激となり、人生にかけがえのない影響を及ぼすと確信しています。実際、数多くの学生たちがYWCAで魅力的な人や活動と出会い、貴重な経験を積んでいます。それは私にとつて何よりの喜びです。私は25歳の時に縁があつて京都YWCAの職員として4年ほど働き、退職後は会員として、特にA.P.T. (Asian

People Together)の活動を中心にしてきました。多文化共生、移住者や人身売買被害者の支援活動は自分のライフワークでもあります。YWCAはそのライフワークを貫くために大切な共同体でもあると思っています。私自信YWCAの「先輩」から多くのことを学び、貴重な影響を受けてきました。振り返ってみると、今教師として学生に伝えようとしている最も大切な内容の多くは、YWCAから学ばせてもらった経験につながっています。憲法9

条と非暴力、沖縄との連帯、女性への暴力や人身売買根絶への取り組み、多文化共生社会、市民運動のあり方、など。仕事への影響はもちろんです。一人の人間としても私は数多くのYWCA会員から「魅力ある生き方」を見てきました。特にキリスト教を基盤とする運動、あるいはクリスチャンとしての生き方も含めてです。自分の原点とも言えるYWCAとは、ずっとつながっていたいです。

## 長下美香

福岡YWCA



私がYWCAに関わったのは、職員として働き始めてからのことである。当時福岡YWCAは、西日本6地域YWCAと協働で、筑豊にある炭坑の歴

史を学ぶプログラムを持っていた。強制連行されてきた朝鮮の人々が炭坑で働かされていたこと、女性は従軍「慰安婦」とされていたことなどをその時初めて知り、大きな衝撃を受けた。日本にそのような隠された歴史があったことも衝撃であったが、それ以上に、そうした事実を知ること、知ろうとしてもできなかったそれまでの生き方が恥ずかしかった。その時を境に、物を見る位置が変わったとも言えるのだろうか、自分の価

YWCAのもう一つの大きな魅力は、いろいろな世代の女性が大きな共通の目的のために共に活動をしていることだ

ろう。特に先輩会員の方々は、人生の先輩として学ぶべき姿勢を示してください、多くのことを教えていただいた。確かに、重責のある役目をいただいた時はすべて放り出してしまいたくなる時もあるが、YWCAは自分の限界を引き上げ成長させてくれる場所でもある。自分でできることを探しながら、これからもYWCAにつながっていききたい。

## 竹村泰子

札幌YWCA

不登校・ひきこもり・鬱傾向・発達障害などの子どもたちが、どの子も安心して過ごせる・学べる場づくりをフォローアップしようと、昨年から始めた札幌YWCAの新しいプログラム「フォロアップスクール」があります。英語と数学のほかに、札幌YWCAが運営しているY's Caféのキッチンでお菓子作り挑戦したり、チェスや刺繍を楽しんだり。指導して下さっている先生は「この子どもたちは持っている力を引き出されて



いないだけで、環境を整えて上手に刺激してあげれば徐々に能力が開発されていきます」と言っておられます。まだ始まったばかりですが、すでにあちこちの

YWCAから問い合わせがきています。YWCAは、以前から全国で、世界で、国籍・人種・年齢などを越えた多様な運動を展開してきました。しかし、『日本YWCA100年史』を読み返すと、戦前・戦時下に先輩たちが神社参拝を強制されたり、時には委員会も開けないなど、国策のもとで苦しみを味わわれたことが記録されています。NOといふべき時にNOと言えなかったという懺悔を基盤のひとつに、戦後の運動は進めら

れてきました。私が40余年もYWCAにかかり続けたのも、楽しい活動の中こうしたスジの通った、時にはがんばるところがとても魅力的で好きだからです。次の世代のためにがんばらなくちゃと思っています。今年8月にはピースウィークを開催し、一人ひとりが大切にされる平和のプログラムを市民たちがつくる1週間になればと希望しています。

## 高見雅美

活水女子大学看護学部1年

高校時代、出会いと経験から学んだ3年間を過ごしました。

一つ目は学校YWCAです。私が活水高等学校YWCAに入部したきっかけは、「ボランティアを通してキリスト教精神を深く学び、隣人愛を身につけたい」との思いからでした。老人ホームでのボランティア、保育園や学童の子どもたちと一緒に遊び、人と人の関わりについて深く学ぶことができました。

「愛と奉仕の精神」を学びキリスト教の素晴らしさを知ることができました。三つ目は、昨年の8月、日本YWCA主催のひろしまを考える旅で、「平和」について考え、多くのYWCAの皆さんと出会いました。平和な世界にするために過去の過ちを多くの人たちに伝え、これから私たち世代が平和を語り継ぐために、多くの課題が残されていると改めて感じました。そして、「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神



の子と呼ばれる」(マタイによる福音書5章9節)と共に忘れてはいけないと思います。今年2月17日、経験から学んだ「隣

人愛」を身につけ、活水高等学校を卒業しました。キリスト教精神と共に看護学を学びたいと思い、活水女子大学へ進学をしました。皆さんとの出会い、神さまの支えがなければ、看護師になる目標を大きく掲げることができなかったと思います。出会いに感謝しています。



大阪  
YWCA

今を、より深く生きるためのエンディング講座

# 「メメント・モリ」



「エンバーミング」ってご存じですか？  
遺体を消毒し、動脈から防腐・殺菌効果のある保全液を注入すると同時に、静脈から血液を排出します。保全液は赤に着色されていて、毛細血管に行きわたると、生前と変わらない血色がよみがえります。やり方によっては、遺体の腐敗を完全に止めることもできるそうです。保全液の注入はエンバーミングの柱ですが、その前後には、ヒゲ剃りやクレンジング、マッサージ、メイキャップ、ヘアアレンジなども施されます。キズがあれば、修復します。

私事になりますが、昨年11月に母が亡くなったとき、すぐエンバーミングを依頼しました。2カ月近い入院生活の間、シャンプーやシャワーも思うに任せず、「ずっと美容院に行けないから、こんなに白髪が目立つ」とか「マニキュアがダメならペディキュアだけでもさせてほしいのに」とこぼしていた母を、思いつきりおしゃれな姿で送り出してやりたかったのです。コンサートや観劇の

ときによく着ていた縮緬のワンピース、台湾で買ったヒスイの首飾り。帽子から少しのぞいた前髪は、ちょうど良い色合いに染めてもらえました。愛用のネールエナメルで、足のつま先まできれいに仕上がりました。皆さんから、「今にも起き出しそう」「元気なときのままやね」と感嘆され、目立つことの大好きだった母にぴったりの旅立ちとなりました。

手術後の回復は順調と言われた矢先に急変し、あれよという間に逝ってしまったので、特に心の準備ができていたわけではありません。迷わずエンバーミングを決めたのは、担当する「今を、より深く生きるためのエンディング講座」で、遺族のグリーンケアの観点から、そのメリットを聞いていたからです。「こんなにやつれさせてしまって」という自責の念を和らげ、安らかな寝顔を目に焼き付けることができると。



2009年に誕生した「エンディング

講座」は、この2年で延べ500人に受講いただきました。エンディング講座の目的は、死から生を見つめることにあります。葬送・終の棲家・成年後見・相続・緩和ケア・グリーンワーク等、取り上げるテーマは多岐にわたり、講師陣も葬送の研究者・司法書士・僧侶と多士済々ですが、通底するのは死生観の問い直し。エンバーミングひとつとってみても、「死んでからもメスを入れるなんて」とか「血色の良い遺体なんて不自然。日本人の感覚に合わない」という反対論もあり、それぞれの死生観が反映されます。「エンディング」という言葉は、「死」を忘れず、しっかり生きていくという意味で使われることが多く、大阪YWCAでは「完成期医療」という表現にヒントを得て、「エンディングとは、人生を完成させること」としています。「メメント・モリ(ラテン語で“死を忘れるな”）」を胸に刻み、日々丁寧に生きたいものです。

大阪YWCA職員 白川啓子

(種)

すると、イエスが  
行く手に立っていて、  
「おはよう」と言われた。

(マタイによる福音書28章9節)

春、パレスチナの地で真っ先に咲くのが、聖書にも出てくるアーモンドの花。桃の花に似たピンクの美しい花で、「希望のしるし」と歌われます。イースター(復活祭)は、そんな時期、早朝の出来事です。師であったイエスの痛ましい十字架の死。悲しみと絶望の極みにあった女たちの行く手にイエスがいて、「おはよう」と。なんだか、ずっこけますね。でも、私はうれしい！こんなに日常的で、こんなに優しい、イエスさまの挨拶が。ギリシャ語でこの言葉は「喜ぶ」という意味、口語訳では「平安」と訳されています。復活のイエスは、誰よりも先にまず女たちに現れ、さりげない、しかし、温かい声をかけて背中を押してくださいました。そこから聖書の歴史が新たに動き始めたように、春、私たちにも新しい出発がうながされています。世界中で女性たちに期待されている事柄は、今、何となくさんあることでしょうか。Keep Hope Alive! 希望を持ち続けましょう。

寺島順子

日本YWCA運営委員

## T君、日本が最後にした戦争を知っていますか？

毛利 亮子

すでに朝鮮半島を植民地にし、中国にも侵略していた70年前、1941年12月に日本はアメリカとイギリスに宣戦布告し、先制攻撃で東南アジアに侵略しました。最初こそ優勢でしたが、資源の乏しい日本には、次第に武器も食料も衣類も足りなくなり、前線で戦っている兵士さえも餓え死にしたのです。43年からは米軍機が日本の上空を飛び、64の都市が爆撃されて何十万もの人が家を失い、殺されました。その極みが広島・長崎への原爆投下です。沖縄での地上戦も悲惨でした。アジアの人々にも大きな被害を与えた末、45年8月、日本は戦争に負けました。

「日本国憲法」が施行されたのは47年5月3日。街はまだ焼け野原でしたが、「国民が選んだ代表者が政治をし、国民の基本的人権をまもる。2度と戦争はしない。と定めた憲法」を持って、私たちは、明るい未来をつくと決めたのです。

憲法を丁寧に読んでください。第9条には、戦争はしない、戦力は持たない、とあります。けれど今、日本には自衛隊がありますね。これは憲法に違反するので、自民党は憲法の方を変えようと何度も試みました。国民の反対が多く実現できないと、特別の法律を作ったり、憲法を勝手に解釈したりしてイラクに派兵しました。でも、直接殺したり破壊したりしなかったのは、憲法9条があるからです。

T君、歴史で見るように、勝手によその国に侵入したり奪ったりする世紀は去りました。話し合いによって物事は解決できるはず。自衛隊は災害支援隊にして平和外交を貫き、膨大な軍事予算を福祉や教育に使えば、皆が生きやすい日本になると思いませんか？ しかし残念なことに政権が代わっても、改憲して武器を使える国にしようという動きは今もあるのです。国の政治にしっかり目を向けてください。  
(東京YWCA会員)



9条を  
楽しく自由に  
広めよう！

9 Girls Rock!  
Tシャツ制作

昨年5月から始動した「9 Girls Rock!」は、憲法9条の大切さを広めていくために『9 Girls Rock! とともによくある質問集』を作成し、戦争・軍隊・核を身近な問題として向き合うこと、そして多様な考えの人たちと対話を通して素敵な答えを探し求めていくことから、憲法9条の大切さを広めていくことを目指しています。

ここで「9 Girls Rock!」の最新情報をお伝えします。まず、「9 Girls Rock!」のロゴが新しくなりました。このロゴは、9条を意味する「9」の周囲を平和の象徴である黄色で彩り、赤と紫色の文字で「Girls Rock! (楽しく自由に)」を表現しています。また、このロゴを通して「9 Girls Rock!」を広く知らせるために、ロゴなどが印刷された素敵な9 Girls Rock! Tシャツを制作しています。そして9 Girlsたちは、このTシャツを着て今年の憲法記念日に東京で開催される5.3憲法集会に参加する予定です。当日、会場の日比谷公会堂の外にいる9 Girlsたちに出会ったら、声をかけて一緒に質問集の答えを考えてみませんか。目印は一目で分かる9 Girls Rock Tシャツを着た9人のGirlsたちです。Girlsたち、その場にいる人たちみんなと一緒に答えを考えることから、お互いに新しい気づきが生まれ、そこから素敵な答えが見つかるかも!

このTシャツ、どのようなものか気になりませんか？ 東京での5.3憲法集会では、この素敵なTシャツを着た9 Girlsたちがお待ちしています。また、5月の加盟YWCA中央委員会などではこのTシャツを販売する予定です。

ビジョン2015推進委員会 木村真理子

「建国記念の日」として「祝日」とされている2月11日、天皇制につながる「家柄」・「血筋」による差別の問題を考える機会として、私たちは奈良県御所市柏原にあり、「人権のふるさと」として親しまれている水平社博物館を訪れました。この日は数年ぶりに雪が降り積もり、予定して

## 2・11プログラム 水平社 博物館 訪問ツアー

京都  
YWCA

いた屋外のガイドツアーは取り止めとなりましたが、館内の展示を通じ、被差別部落の人々の暮らしや、日本で最初の人権宣言となった「水平社宣言」(1922年3月3日、京都市岡崎公会堂で読み上げられた)に関する歩みを、十数名の参加者とともに学ぶ有意義な時が与えられました。その中で特に私が関心を持ったのは、水平社が男性だけの組織にとどまらず、「少年少女水平社」や「婦人水平社」も創立されていたという事実です。差別を受けていた人たちだからこそ、男性上位の時代にもかかわらず、子どもも女性も、平等への熱い思いと差別への怒りを発信し行動する力が得られたのではないかと思います。

このことは、子どもや女性をエンパワーするYWCAの目的にも通じるものがあり、もう一度この地を訪れたいという気持ちを胸にしました。

京都YWCA 木戸さやか



## 東北地方太平洋沖地震 支援募金のお願い

—被災された女性・子ども・高齢者・障がい者のために—

3月11日に発生した東北関東大地震・津波・福島原発の事故で被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

日本YWCAは、国内外のネットワークで、被災された方々、特に、女性・子ども・高齢者・障がい者の方々の中長期支援のため、募金を呼びかけます。皆さまのご協力を、お願いいたします。

振込先： (郵便振替の場合)  
口座番号 00170-7-23723  
加入者名 財団法人日本YWCA  
\*通信欄に「地震支援募金」とご記入ください。

(銀行振込の場合)  
三菱東京UFJ銀行 市ヶ谷支店 (店番 014)  
普通預金 口座番号 1282597  
口座名義 財団法人日本YWCA

募金期間：第1期 3月14日～4月末日

## 新潟の柏崎・刈羽原発、 静岡の浜岡原発の 即時運転停止を求めよう！

緊急行動の  
呼びかけ

3月11日に起こった東北地方太平洋沖地震は、福島第一原発の重大事故につながりました。被害はこれまで原子力行政が想定していた規模をはるかに超え、地球規模の放射能汚染が懸念されます。

現在、近隣の新潟県の柏崎原発・刈羽原発、静岡県の浜岡原発は稼働していますが、今後起こりうる大地震に備えて、これらの原発を安全に止められるうちに、運転の中止を求め、皆さんに行動を呼びかけます。

電力会社、日本政府、新潟・静岡県知事に対し、FAXまたはEメールで要請をお願いします。宛先、および要請文のひな型は日本YWCAホームページをご覧ください。http://www.ywca.or.jp/home.html

## 世界のYWCAからのメッセージ

3月11日に起こったマグニチュード9.0の「東北地方太平洋沖地震」に際して、世界中のYWCAから、被災された方々と日本の状況に心を寄せる、お見舞いのメッセージが届いています。

■ニカラザイ・グンボンズバンダ 世界YWCA総幹事 より  
すべての世界YWCAの家族が、喪失・悲しみ・痛みの中にあるこの時、日本YWCAの皆さまと日本人々と共にいます。状況をお知らせさせていただきありがとうございます。祈りをもって。

■カン キョチャ 韓国YWCA 会長  
ヨースンヒ 韓国YWCA 総幹事 より (抜粋)  
私たちは日本YWCAの状況を深く憂慮しています。この大惨事において、苦難にある皆様のごことがとても心配です。私たちは、状況を傍観しているわけにはいきません。物品と精神との両面でサポートできることを模索しています。できることがあれば何でも、そしてニーズが明らかになった時点でいつでも、私たちに支援を呼びかけてください。日本のYWCAの皆様が、この惨事から立ち直られるように祈っています。

■ジン・ウェイ 中国YWCA総幹事代行 より (抜粋)  
中国にあるYWCAの仲間と友人は、被災地の方々に心を寄せています。私たちは、日本人々が現在非常に厳しい時間を過ごしていることを理解しています。中国のナショナルYWCAとローカルYWCAを代表して、被災地の状況への深い関心と、巨大地震と津波に被災された方々にお見舞い申し上げます。神の祝福が日本人々と共にあり、被災地の人々を災害から救い出しますように。

■ミラ・リゼック バレスチナ YWCA総幹事 より  
私たちは、日本を見舞った不幸な地震と津波を非常に心配すると共に、原子力発電所が損傷したかもしれないことにさらなる心配を寄せています。私たちは、これが皆さまに深刻な影響を与えないことを祈ります。そして、この災害に際して、皆さまの無事を祈ります。

その他、ルーマニアYWCA・レバノンYWCA・ヨルダンYWCA・インドYWCA・成都YMCA / YWCA (中国) や、世界YWCAと各国YWCAの運営委員等からメッセージが届いています。フィリピンYWCAからは「祈りと連帯のメッセージ」が届いています。

(3月14日現在)

- ご協力ありがとうございました
- 賛助費
    - 齋藤康代 庄子泰子 小波津喜美
    - 戸枝季子 森元敏江 田村三保子
    - 小泉迪子 大見川昭子
  - 事業支援寄付
    - 桐村豆子 首藤和子 清水嶋 孝
    - 松本佳代子
    - 福岡YWCA合同祈禱会
  - 国際協力募金
    - (バレスチナYWCA支援募金)
      - 三井貞子 神戸YWCA
    - (オリーブの木キャンベーン募金)
      - 佐伯響子 坂和 優 清水嶋 孝
      - 首藤和子 庄子泰子 田村三保子
      - 高柳博一 田中淑子 仁平のぞみ
      - 蓮井 治 馬場良子 野々村 耀
      - 廣納康幸 松本彰雄 松本佳代子
      - 松山恭子 青木浩子 三股まさ子
      - 桐村豆子 横田昌三 小波津喜美
      - 小沼泰子 国連協会平塚支部
      - 呉YWCA
    - (国際協力募金)
      - 仁平のぞみ 青木浩子 呉YWCA
      - 東京YWCA 0422実行委員会
      - 名古屋YWCA 神戸YWCA
    - (国際協力募金 緊急災害支援)
      - 神戸YWCA
    - (変革の力基金)
      - 横浜英和学院 新潟YWCA
      - 甲府YWCA
    - (世界YWCA総会派遣募金)
      - 戸枝季子
    - (ワンコイン募金 & 全国メッセージキャンペーン)
      - 個人19、中高YWCA1、地域YWCA4
    - クリスマス献金
      - 日本基督教団阿佐ヶ谷教会
      - 日本基督教団阿佐ヶ谷教会
      - 日本キリスト教団鎌ヶ谷教会
      - 日本基督教団代々木上原教会
      - 福岡女学院中学校高等学校宗教部
      - 東京女子大学キリスト教センター
      - 横浜共立学園 福岡YWCA
  - (2011年2月20日現在 敬称略)
- 今号より装いも新たに「YWCA」をお届けします。発行は偶数月、年6回になります。積極的にご利用ください。またご意見をお寄せ下さい。
- 編集委員会